

「アナフィラキシーって何？アレルギーとは違うの？どうすればいいの？」

平成 29 年 3 月放送

徳永 日呂伸

「アナフィラキシー」は、言ってみれば「アレルギーの中でもひどいもの」なのですが、まずこの2つの言葉について説明します。

アレルギーとは、人間に備わっている免疫機能が、食べ物や薬や花粉などに対して“まちがえて過剰に反応”してしまう状態です。

具体的には、蕁麻疹や花粉症などです。

これに対してアナフィラキシーは、アレルギーの中でもとりわけ重症なもので、全身的な症状が出てきます。全身的な症状とは、呼吸困難、倒れたり意識不明になるほどの血圧低下、動悸やめまい、腹痛や下痢・嘔吐などです。

そしてこうした症状は、ひどい場合には数分程度でみるみる出現して命に関わることもあるため、疑ったらすぐに救急車を呼ぶことが大変重要なのです。

もう少し詳しく考えてみましょう。何らかの物質が体内に入ることによってアレルギーは引き起こされます。青魚やエビ・カニ類を食べて蕁麻疹が起きたり、スギ花粉によって鼻水や目のかゆみ等いわゆる花粉症になったりするのとは、とても一般的ですね。

より重症なアナフィラキシーについてはどうでしょうか？

ハチに刺されて起きることが有名ですが、アナフィラキシーは決してハチ特有のものではありません。様々な食べ物やクスリなどが原因となり、極端な場合には、蕎麦を一口食べただけで、あるいは小麦畑の横をジョギングしただけで、アナフィラキシーになってしまうようなこともあるのです。



では、アナフィラキシーを疑ったら、どうすればいいのでしょうか答えは簡単、一秒でも早く救急車を呼んでください！アナフィラキシーの特効薬は現在注射しなく、その治療が間に合わなければ救命できない場合があるのです。逆に間に合ってキチンと治療がなされれば、後遺症が残ったりする心配はありません。ですから、多少でもアナフィラキシーを疑った場合には、

迷わず救急車を呼んで一刻も早く病院に搬送してもらうことが大変重要なのです。

なお、飛行機や船に乗っている場合などの特殊な状況を考慮して、「自分で筋肉注射できる携帯用注射キット」を、条件はありますが病院で処方してもらうことができます。少なくとも過去に病院でアナフィラキシーの治療を受けたことのある方は、一度考えてみてもいいかもしれません。病院によって取扱いがなかったり何科が対応するかが異なっていたりしますので、まずは電話で問い合わせしてみてください。

最後にもう一度、「ひどいアレルギー反応であるアナフィラキシー」についてまとめます。特別な病気もないのに急に、蕁麻疹や花粉症のような症状だけでなく、呼吸困難、動悸やめまい、腹痛・下痢・嘔吐、などの症状が出てきたら、直前にハチに刺されたりしていなくても、アナフィラキシーを疑って、一秒でも早く救急車を呼んで下さい！

あなたの勇気が、尊い命を救うことになるのです。